



# ぶいごぞき追って

329

— 研究室の扉を開く —

## 混凝土

「土を混ぜて固める・固まる」ということでしょ

日本では、アメリカを  
亜米利加、フランスを仏  
蘭西、ドイツは独逸と当  
て字をし、それらを略し  
て米、仏、独と表記する  
のは今日で  
も行われて  
います。

## 最新技術は拒否される？

さて、明

治期から大正期の建築技  
術書によく出てくる「混  
凝土」はどう読むのでし  
ょうか？ これは当て字  
の中でも傑作だと思いま  
す。「コンクリート」。音  
と意味がみごとに合体し  
ていて感心させられま  
す。

コンクリートとは、セ  
メント、砂利、砂と水を  
混ぜ、擬似的につくる人  
工の石、と当時は一般的  
に理解されていました。  
「凝」の字は固まる、の意  
味も持っています。命名  
者の意図はおぞうへ、

北海道ではほとんど初  
めての鉄筋コンクリート  
建築工事でしたので、担  
当した工事監督さんは大  
変な苦勞をされました。特  
に厳しかったのが、檀家  
衆の猛反対でした。

その言い分は、「混凝  
土は、もともと俗人凡夫  
の踏み付ける不浄の地面  
から採取したもので、こ  
れで造る御堂へは、大切  
なる御仏、祖先の霊をま  
つることはできない」  
「泥土に等しき不浄極ま  
る混凝土を流し込みて造  
るので、その脆弱さは解  
りきっておる」「得体の  
解らぬ泥紐工云々…」  
檀家にとって、初めて  
見る新しい建築材料、さ  
らに「混凝土」の字面の  
イメージのその物は、拒  
否すべき不可解で醜悪な  
物体だったのです。

このことは、建築に新  
技術が導入される際の、  
一般の人たちの極端に消  
極的、保守的な反応とし  
て大変興味深いもので  
す。



重要文化財の大谷派本願寺函館別院本堂

某倉庫とされています  
が、これは現存しませ  
ん。現存する最古かつ本  
格的なものは、横浜市の  
日本大通りに面して建つ  
横浜三井物産ビルで、11  
年竣工。今日でも現役の  
オフィスビルです。

往時は住居数145戸を  
擁していましたが、現在  
は無人の廃墟と化してい  
ます。  
現役で最古の鉄筋コン  
クリート造り集合住宅  
は、近年リノベーション  
(改修) 工事が完成した  
東京都文京区の求道学舎  
(26年竣工)です。  
(建築研究所 建築生  
産研究グループ・材料研  
究グループ 長谷川直  
司)

現在この本堂は、耐震  
補強を施した上で、鉄筋  
コンクリート造りで伝統  
様式を再現した我が国で  
最初の寺院建築として、  
国の重要文化財(建造物)  
に指定されています。  
ちなみに日本における  
鉄筋コンクリート造り建  
築のさきがけは、190  
5年(明治38年)竣工の